

《札幌地域イオル再生事業ライブラリー調査聞き取り》

【話者】 I.Sさん、I.Fさん夫妻

【実施日】 平成25年3月4日（月）

聞き手：今日は石狩アイヌのことについてお聞きしたくて来ました。

I.Fさん：Iのほうはまだちょっとわかんないんだけど、これが、泥川のなんだよ。これ全部F先生に…集まりに来た時にやってもらったんだよ。私ね、戸籍の字が難しくわかんないんだよね。これはKでしょう？Aは私の母方のおばあちゃんなんだけど、こっちはまだ調べてないの。まだわかんないんだよね。UってのがAともKとも親戚なんだよね。U、K、A、S、Iいずれもみんな兄弟なんだよね。

聞き手：これIさんのほうの全部なの？

I.Fさん：そうだと思うけど、もっと調べてみないとわかんないんだよね。天保っていつのこと？

聞き手：江戸末期じゃないかな。Uさんって聞いたことあるような気がする。

I.Fさん：Uって白糠らしいんだよね。

聞き手：今日は石狩アイヌのことやIさんの育った環境について聞かせてください。

I.Fさん：Iの方がまだきちんとしてないからね。

I.Sさん：U、A、K、Sは、いずれも兄弟なんだ。〇〇（不明）の妹がIという侍と一緒にになって名字がIに。

聞き手：それぞれ結婚した人の名字になってるってこと？

I.Sさん：いや。兄弟で姓が違うのは、住んでいた場所で異なり…樺戸に住んでいたものはK姓になってて、空知に住んでいたのはS姓になってて、各々姓が違うんだ、兄弟でも。

聞き手 : そうなの？

I . S さん : そうなの。ほんとは、みんな一緒のはずなのにね。

I . F さん : この上（戸籍に書いてある先祖）をきちんと調べればわかるんだけどね。戸籍作られたときで、兄弟でも違うんだって。札幌の〇〇（不明）さんの父と私の父とが従兄弟だから、このあいだ札幌で初めてみたわ。

聞き手 : このあいだ、Aさんに聞いたら滝川生まれって言ってたもんね。

I . S さん : 元々はみんな滝川一帯に住んでたんだけど、和人が来て奥に追われて、そのころは畑なんか作ってないし、山に住めればどこでもよかったから。このへんまで今行っても、なんも採れない。このへんの奥から 2~3 軒目に泥川…生まれたころの家があったんだ。

I . F さん : 浜益に抜けるところに一回墓参りに行ったけど、ひどかったよね、ドロドロで。

聞き手 : ご夫婦で同じ先祖なんですね。どこで生まれたの？

I . S さん : 生まれたのは旭川で、母親が泥川で腹おっきくなって、実家に 1 年間帰っていた。(アイヌ) 記念館のすぐ近く。子ども生むのに旭川に行ったんだ。しばらくして泥川の家に戻ってきたところ、まわり一帯全部が水で。まわりは全部逃げ出していた。そのころ、家の親父は泥川で鉄砲撃ちやってたから、それまではよかったんだ。それから猟できなくなって旭川へ。熊彫りを覚えたのは旭川だと。

聞き手 : 鉄砲撃ちってどんなもの獲ってたの？

I . S さん : うちの親父は、鹿は金にならないから、鹿以外を獲ってた。エゾリス、テン、熊、タヌキ、ウサギなど。俺が学校行ってるころは、まだ食えるくらい金になったんだ。

I . F さん : 肉持って行って交換したって言ってたよね。そのころ向こうが持ってきた米なんかと交換して。

I.Sさん：麦や米と交換していた。冬になったら鉄砲撃ちやって、農家が持ってきたものと肉と交換してたんだ。今の麦と違って黒かったからね。新十津川の奥にまだIのフチ（婆）残ってるはずだよ。Tが親父の姉でKと兄弟なんだ。

聞き手：お父さんが生まれたのはどのへんなんだろう？

I.Sさん：生まれたのは新十津川だよ。

I.Fさん：新十津川にまだ叔母さんがいるから、こういうの見せるとわかるかも知れない。いろいろな地方の人と結婚してるから。

I.Sさん：だからアイヌの血は薄いはずなのに、エカシ（長老）や親父より濃い！兄弟で一番俺が濃いんだ！！

I.Fさん：アイヌとばっかし結婚するからさ。

I.Sさん：木彫はみんな旭川で覚えて、阿寒にみんな行ってるんだから。旭川の木彫りはたくさんいた。同級生も若いころ、一生懸命熊彫りしてたけど、全然ダメになってダンプに乗ってる。俺も、熊彫り商売にならないから辞めた。それからアクセサリーとか彫ってる。みんな旭川の木彫り問屋に卸してた。だけど輸入とか国産とかわからなくて、知らない者は安いものを買う。国産か輸入とかキチンと書けて！北海道に何度も来ている大臣もわかった。国産品は良いものだって、Y.Tの兄とK2さんとBの親父とYとI2…この5人で「まりも祭」考えたんだ。俺は学校行くまで阿寒にいた。「まりも祭」も3～4回目くらいまでは毎年出たんだ。40歳くらいのころだけど、行ったら一番上座に座らされた。みんなわかってるから。小学校に上がるころから、親父たちについて東京や本州、物産展じゃなく博覧会専門に歩いてたから。転校証明書が発行されるのに4カ月も5カ月もかかる。転校してもしばらく学校へ行けないこともあった。先生の言うことも生徒の言うことも、なんもわかんなかった（方言が）。宮崎の博覧会に行った時、転校証明持たないで行ったから、4～5カ月間学校に行けなかった。やっと学校に行ったら、教科書もどこ読むかわからない。共通語しゃべる人連れてきてくれて、やっと少しわかった。大人になってからもフェリーに乗って本州に着くと、道を聞いても何言ってるかわからない。若いもん聞いても誰に聞いてもみんな逃げる。年寄りに国道なのか農道か聞いてもわかんないし。買い物行ってもわからない。飲みに行ってからまれて、なんでって聞いたら顔

が珍しいからだって。それから飲みに行くのやめた。初めてトロリーバスもケーブルカーも乗った。アイヌでなくてもそのころ、津軽海峡渡る人はあまりいなかった。中学生の時の修学旅行で十和田に行った時、連絡船に乗った。俺は何回も乗ってるけど、同級生は旭川だから海なんか見たことないんで大騒ぎ。イルカがいるとか。仙台でも同級生は初めて乗るエスカレーターが珍しく、何度も上がっては下り上がっては下りして「やめなさい」って叱られてた。田舎丸出し、俺は内地で何回も乗ったことあるけどね。

聞き手 : お母さんとかは何かアイヌのことしてた？

I.Sさん : お母さんも木彫りやってたよ。手伝い。

聞き手 : それって何年ごろ？

I.Sさん : わからん。小学校入る前ころまで。昭和〇年（20年代半ば）くらいじゃないかな。全部、道庁通じて仕事していたから…博覧会専門。だから北海道のIだけで郵便届いたからね。

聞き手 : 彫ってたのは熊？

I.Sさん : 熊。

I.Fさん : 熊、売れたもんね。

聞き手 : お父さんやお母さんってアイヌ語しゃべってました？

I.Sさん : しゃべってたけど、うちの親父に学校でしゃべるなって言われてたから。聞かれたらまずいことだけアイヌ語で。だから、いい言葉は覚えてない。

聞き手 : ユーカラ（アイヌの叙事詩）とかはしゃべってたのかな？

I.Sさん : わかんない。小さい時は、俺には全然何しゃべってるかわかんない。

聞き手 : 木彫りはいつごろ習ったの？

I.Sさん：習わないよ。親父は教えない。物心ついたらやってた。自分で道具買ってきて…自分でやってた。習うより学べて感じだったから。エカシ（木彫り顔のエカシ）も熊も彫れるよ。本当はほとんどレリーフ。

聞き手：お母さん、刺繍とかはしたのかな？暮らしは、どうでした？

I.Sさん：電気もあったし…洗濯機も。5年生の時、家でテレビを買った。まだ誰もテレビのない時にさ、2m位のでっかいアンテナ。道路挟んで学校あって、先生が「I、テレビあるべ！帰れ！」…って言われて帰ったら、全員で見に来た。2部屋に人がびっしり、俺たちは流しで飯食って、子どもは8時まで大人は9時まで。プロレスの時は9時までだった。街では街頭テレビあってカラーだった。差別もあったけど、俺は堂々としてたよ。絶対負けなかった。負けたら親父に怒られるし。同窓会にアイヌは誰も出てこないけど、俺は行った。

I.Fさん：アイヌアイヌって言われるけど、意味わかんなかったし、なんでこんな目に…悔しいやら…なんでこんな目に合うんだろうって…くやしかったよね。そして父親のほうは穂別仁和だし、余市のほうにも親戚がいるみたいなんだよね。みんな繋がってるんだよね。うちのK3ってのが、M.Sっていうんだ、役場で聞いたら墓とかもわかるかも知れないんだ。旧土人の土地の関係で、女兄妹ばかりだったんで。

I.Fさん：うん、そう。このごろ、まだ名字ないからわかんないの。どっちに繋がっているかわからない（戸籍見て）。

聞き手：昔の思い出、何かあったら教えてほしいな。差別の話でもいいし、違う思い出でもいいし。

I.Fさん：家のお手伝いとかもあったし…家ではアイヌのこと、あまり覚えてないし、してないし、わかんなかったよね。これ見ると私のばあちゃん、大正〇年（10年代前半）に亡くなってらんだよね。調べてみないとわからないもんだよね。父さんが中学生の時に亡くなって、左官屋やってたけど、その後、母さんは弟の左官屋を手伝って働いて、農業手伝いをして私たちを育てた。だから、アイヌのことでできなかったと思う。働いて働いて。Iに来て初めてイオマンテ（熊送りの儀式）とか…アイヌのことやった。姉がIで働いていたから、内地に行きたくてね、私もIに入った。ただ内地に行けるってだけで、何にもないんだけどね。

I.Sさん：うちの親父、イオマンテの裏方全部やってた。イオマンテの形やったのさ。15人でロープで引っばって。仔熊、みんなは飼えないからうちで飼ってた。15～6頭ミルクやったり店の前で放し飼いで、お客さん、熊と思わず犬と思って近寄ってびっくりしてた。温根湯、美幌で変な飼い方するから…お客さんに怪我させてから飼えなくなっちゃった。家で熊飼ってた。小さいころから育てて、子どもたちと一緒に遊んで育った。子どもたちは、熊との付き合い方わかってた。機嫌良いとき悪いとき、わかってた。慣れててもダメな日もあるから。熊見たらわかる。調子いいか悪いか。だけど知らない者はいつも同じ扱いをするからダメなんだ。みんな繋がってて親戚になるんだよね。A.Tのほうも調べなきゃいけないし。

聞き手：昔、お父さん鹿とか獲ってたって言ってたけど、ウサギとかも食べたことあるの？

I.Sさん：あるよ。でも、まず金になるかならないかだよ。金にならないもの獲っても食べてけないから。当時、鹿はそうみたいだよ。テンやエゾリス、熊、鮭は、ボンボン上がってきた。売れたみたいだね。小さいけど覚えてるし。生活も苦しかったよね、やっぱり。イベントは結構あったよ。長いので3カ月くらい。北海道博覧会もそのころ誰もしゃべる人いないし…俺達が行った。ウサギはうまいけど毎日食べると飽きるのさ。カモはおいしいよ。鳥は担いできた。豚でもウサギもテンも狸も塩だけでおいしく食べれるんだ。狸は獲られそうになったら、倒れるから、気絶する。

聞き手：ああ～、だから狸寝入りって言うんだ。

I.Sさん：そうそう。テンはネズミとか獲って食べるから…ネズミ増えるからテン禁猟になった。だから、俺も鉄砲撃ち辞めた。石狩川は春と秋になったら鹿が移動するんだよ、たくさん。エカシたち、それ獲って毛皮売ってた。鮭もボンボン上がってた。それこそ、舟も移動できないほどたくさん。

聞き手：ユーカラにあるとおりにだね。

I.Sさん：うん、そうだよ。今、映画撮影してるの。このあいだ大変だった。エカシ役で9月、10月、11月とずっとやってる。それがさ、アイヌ語しゃべることになった。俺、知らんしょ。映画は日本語の吹き替えだけど。感情入ってないからとか

言われて、18分全部暗記してからやったんだけど、暗記した文と渡された文と言葉が違う、もういい加減にしてくれって感じ。観光協会の人なんだ。アイヌ入れたくて無理くり頼まれて。渡辺謙と俺がしゃべって。そしてグッと睨んで。俺が頼まれたのは、監督がいろんなアイヌ見て「Iさんの目がいい」って決めたらしい（…と言って、メガネを外してくれた。なるほど鋭い目、素晴らしい目、いいシーンが撮れただろう。）。監督から「Iさん良かったよ」って言ってくれた。チセ（家）作って俺を撮る時は、反対のチセの壁を取って撮影して、渡辺謙のほう撮る時は俺のうしろを外し、二人を撮る時は壁と入口外して、その作業終わるまでずーっと渡辺謙とタバコふかして話して待つだけ。長くて大変だ。いい人だよ、渡辺謙さんととても気を使う人だしね。

I.Fさん：いい男だったわ。

I.Sさん：お金のこと言ったら絶対できないね。時間かかるし、仕事も休まなけりゃならない。いい経験になった。孫たちも喜んでくれたし。小学校のころ、学校行く前に木工場に寄ってから…木に名前書いてから学校に行く…それを運んだりして体力ついた。夏になったら俺、エカシやフチに好かれてたから、「Sちゃん、山行くぞ！」って、一緒に山に連れてってもらった。そういう思い出、兄弟の中でも誰もしてない。今はそれがなんもない。子どもにも教えておかないと。

I.Fさん：私も、もっと聞いておけばよかったと思う。

I.Sさん：石狩アイヌ、少ないってことだけど、旭川にはいるけど上川も少ない。孫が大きくなるまで、いろいろ話しておかなければね。今度…雪とけたらまたおいで。ここから20分位のところの丘に映画撮ったところあるから。